

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

(4/28~5/4)

4 月報合併号

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

◇ インフルエンザは減少していますが、減少ペースは鈍くなっています。東濃保健所では再び注意報レベルとなっています。

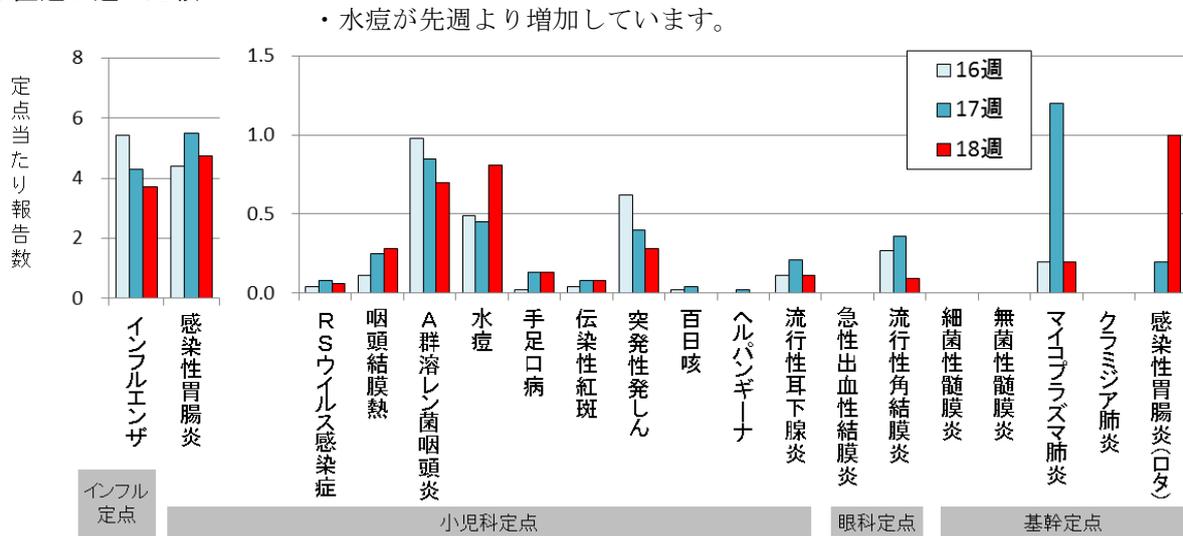
◇ WHO がポリオの国際的拡大のリスクに関して声明を出しました。→トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフル：定点：87 か所、小児科定点：53 か所、眼科定点：11 か所、基幹定点：5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	インフルエンザ	東濃保健所（11.25）

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 5 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：A 型肝炎 1 例、つつが虫病 1 例
- 5 類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例（無症候性キャリア）

● 2014 年累計

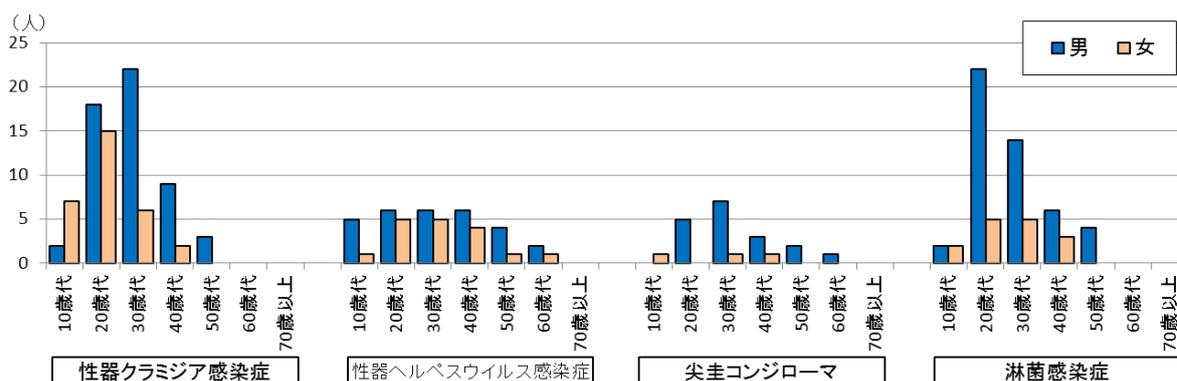
1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	135 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5 例	
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 1 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 5 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	3 例	侵襲性肺炎球菌感染症 8 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	後天性免疫不全症候群	5 例	風しん 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例	麻しん 2 例

■月報告定点把握対象疾患 <4月>

●性感染症（STD定点：15か所）

疾患名	報告数（定点当たり）					
	4月	男	女	3月	2月	1月
性器クラミジア感染症	23 (1.53)	17	6	19 (1.36)	23 (1.64)	19 (1.36)
性器ヘルペスウイルス感染症	12 (0.80)	8	4	14 (1.00)	10 (0.71)	10 (0.71)
尖圭コンジローマ	4 (0.27)	3	1	5 (0.36)	7 (0.50)	5 (0.36)
淋菌感染症	12 (0.80)	9	3	20 (1.43)	15 (1.07)	16 (1.14)

年齢階級別報告数（2014年1月～4月累計）



●薬剤耐性菌感染症（基幹定点：5か所）

疾患名	4月報告数 (定点当たり)	年齢群等
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15(3.00)	50歳代1例、60歳代4例、 70歳以上10例
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	なし	—
薬剤耐性緑膿菌感染症	なし	—
薬剤耐性アシネトバクター感染症	なし	—

■病原体検出情報速報

病原体定点等から提出された検体の病原体（遺伝子を含む）検索結果（4月10日～5月8日結果判明分）

臨床診断名	病原体名	検出数 (人)	検体採取年月
インフルエンザ	インフルエンザウイルス B 型	1	2014年4月
麻疹	麻疹ウイルス B3 型	1	2014年4月
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	1	2014年4月

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■トピックス

《ポリオ（急性灰白髄炎）》

◆ ポリオの国際的拡大のリスクに関してWHOが声明を出しました。

WHOは、ポリオの感染が増加傾向にあり、国境を越えた広がりもみられるとして、5月5日、「国際的な公衆衛生上の脅威となる事象である」と宣言しました。同時に、感染国の住民や国外への渡航者の予防接種を徹底するよう勧告を行いました。

現在ポリオの発生がある国は10カ国で、そのうち3カ国でポリオウイルスの国際的な広がりが認められました。

◆ 渡航前には予防接種を受けましょう。

ポリオが発生している国に渡航する方は、追加の予防接種を検討してください。WHOでは、以前にポリオの予防接種を受けていても、渡航前に追加の接種をすすめています。

特に1975年（昭和50年）から1977年（昭和52年）生まれの人は、ポリオに対する免疫が低いことがわかっていますので、海外に渡航する場合は、渡航先が流行国でなくても、渡航前の追加接種を検討してください。

なお、日本の定期予防接種では、2012年8月までは経口生ワクチンが使用されていましたが、2012年9月以降は不活化ワクチン（注射）が使用されています。

（参考リンク）厚生労働省検疫所ホームページ <http://www.forth.go.jp/topics/2014/05071601.html>

ポリオが発生している国（10カ国）

アフガニスタン、カメルーン、赤道ギニア、エチオピア、イラク、イスラエル、ナイジェリア、パキスタン、ソマリア、シリア

国際的な広がりが認められた国

中央アジア（パキスタンからアフガニスタン）
中東（シリアからイラク）
中央アフリカ（カメルーンから赤道ギニア）

ポリオについて

ポリオは、ポリオウイルスによって急性の麻痺がおこる疾患です。ウイルスが人の口に入り、腸の中で増殖することで感染します。ウイルスは便に排泄され、新たな感染源となります。

日本では、1963年からポリオの定期予防接種が行われたことによりポリオ患者は減少し、1980年を最後に野生株ポリオウイルス[※]による麻痺症例は報告されていません。

※ポリオウイルスには、自然界に存在する強毒型の野生株とワクチン株があります。ワクチン株は、経口生ワクチンに用いられる弱毒化されたウイルス株ですが、ワクチン株であってもきわめてまれに麻痺症状を起こす場合があります。

国内へのポリオウイルスの侵入がないか監視を行っています。

日本では、ポリオ様の麻痺患者の便や、下水などの環境にポリオウイルスが存在しないかサーベイランス（監視）を行っています。当所においても、疑い例患者の検査及び環境水の定期的な検査を行っています。なお、国内で麻痺患者から野生株が検出されたのは1980年が最後で、環境からは調査の始まった1962年以降野生株は検出されていません。

感染症法における取扱い

ポリオ（急性灰白髄炎）は、感染症法において2類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は直ちに保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>